約1億1656万円の黒字に

平成19年度一般会計決算

9月に開かれた第6回町議会定例会で、平成19年度のまちの歳入・歳出の決算が認定されました。平成18年度の一般会計決算は赤字でしたが、平成19年度の一般会計では、約1億1656万円の黒字となりました。昨年度まちがどのようにお金を使ったのかをお知らせします。

一般会計・特別会計ともに黒字決算

まちの会計は、一般会計と特別会計で構成されています。

平成19年度（平成19年4月～平成20年3月）の一般会計の決算は、歳入総額（まちに入ってきたお金の総額）約38億7770万円から歳出総額（まちが支払ったお金の総額）約37億6114万円を差し引いた約1億1656万円の黒字となりました。

また、特別会計ではどの会計も黒字決算となりました。

平成18年度の一般会計決算では、約2590万円の赤字となり、平成19年度当初では、1億7千万円余りの赤字を見込んだ予算となっていました。

単年度の赤字は今後数年間続く見込みでしたが、1年で解消できたことになります。

黒字になった主な要因としては、鳥取県西部地震の際に県から借りたお金の残り約9億8000万円の返済が引き延ばされたことや、普通交付税が当初見込みよりも増となったこと、また職員の早期退職による人件費の削減などが大きなものとして挙げられます。

まちでは、これからも財政の健全化を目指し、創意工夫しながら予算執行に務めます。

一般会計決算　歳入

総額約38億7770万円 8割を依存財源に頼る

平成19年度決算のうち、一般会計の歳入は、合計約38億7770万円で、平成18年度決算に比べ約28％増えています。

歳入の内訳は下のグラフに示したとおりです。

歳入全体に占める割合の大きなものから見ると、国から交付される地方交付税が約17億3699万円で、歳入全体の約45％を占めています。

続いて、まちが借り入れる町債が、通常分と県貸付金借り換え分の合計約11億1603万円（全体の約29％）、町民税・固定資産税などの町税が約4億1446万円（全体の約11％）の順になっています。

一般会計の歳入を財源の性質別に見ると、町税や保育料、住宅使用料など、まちが自主的に収入にできる自主財源が約6億6248万円で、全体の約17％となっています。

また、国や県から定められた金額を収入にする依存財源は約32億1522万円にのぼり、歳入全体の約83％を占めています。

平成19年度一般会計決算

歳入内訳

▼その他（※1）
分担金及び負担金、使用料及び手数料
財産収入、寄付金、繰越金

▼その他（※2）
地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、
地方消費税交付金、株式等譲渡所得割交付金、
自動車取得税交付金、地方特例交付金、
交通安全対策特別交付金